



就労継続支援B型事業所 ワークみどりでの取り組み

特定非営利活動法人エヌピーオーいずみ
就労継続支援B型事業所 ワークみどり



NPOいずみの概要

- 就労継続支援B型事業所 ワークみどり
- 地域活動支援センター 飛行船
- 地域活動支援センター 飛行船2号
- 相談支援事業所 いずみ
- グループホーム いずみ

ワークみどりの概要①

- 就労継続支援B型事業所

- 活動の目的

- ① 社会性を身に付けつけられるように支援します

- ② 病状の自己管理をできるようにして、社会参加への準備を整えられるように支援します

- ③ 軽作業の機会を提供します

- 開所日 月～金曜日、第一土曜日（調理プログラム）

- 開所時間 9:00～17:00

- 作業時間 10:00～15:00

ワークみどりの概要②

- 活動内容

①リサイクル店舗

②内職（ショッピングバッグの作成等）

③ポスティング

④牛乳箱の洗浄

⑤皿洗い

⑥名刺作成

⑦その他

- 登録者数 58名（20代～60代）

- 1日平均 23.3名

- 男女比 7 : 3

- 統合失調症、うつ病の方が多く利用中。

- 高次脳機能障害をお持ちの利用者：5名

（各々週2日～週5日利用中）

事例の紹介

・ Tさん（40代男性）の場合

障害名：高次脳機能障害

手帳：精神障害者福祉手帳2級

家族：兄弟と同居

経緯：30代半ば 髄膜炎により倒れ、入退院を繰り返したのち、高次脳機能障害と診断される。

本人の特徴

- ・ 記憶力低下（道や人の名前が覚えられない、新しいことが覚えられない、日付がわからないなど）

- 感情のコントロールが苦手

毎日同じ席に座り、その席に他の利用者が座っていると怒る。自分の持ち物や作業途中の品物に他人が触ると露骨に嫌な顔をする。少しのことで苛立ち、他の利用者を蹴る、肘で押す、といった行動もみられる。

- 万引きを何度も繰り返す

本人は「していません」と認めたことがない。
(記憶がない?)

- 頼まれた仕事は最後まで黙々とこなす

職員から頼まれた仕事は断らずに引き受け、単調な作業でも根気よく続ける。荷物の引き渡しなども手際よく動いてくれる。

利用開始時の様子

- 保健センターのからの紹介により、平成22年よりワークみどりに通所開始。利用開始当初はワークまでの道順が覚えられず毎回母と一緒に通所。
- 作業はショッピングバッグ作成。職員の説明を聞かず勝手に作業を進めてしまうことが多かった。手順もなかなか覚えられないが、職員が作業の途中で注意すると怒った表情をする。
- 約5ヶ月間母との通所を続けたのち、一人で通所を始める。来所予定はすべて手帳に記入するように職員から促した。

ワークみどりで取り組んだこと

- 道順を覚えるために

職員がバス停まで迎えに行く。

実際に歩いて目印となる建物を確認し、オリジナルの地図を作成。それを手帳に入れて毎日持ち歩いてもらう。

- 作業を覚えるために

複数のことを同時に頼まず、作業工程を限定した上で何度も繰り返し取り組んでもらう。

新しい作業に取り組む場合は、作業工程を細分化してどの工程であれば無理なく作業できるか職員で検討。

作業内容によっては、別の作業を依頼。

• 飲酒を控えさせるために
飲酒した日は利用できないことを繰り返し伝える
⇒「お酒のにおいがするので今日は帰りましょう」という
伝え方をした。

日課表を用意して、個別のプログラムに取り組む。

• 万引きをふせぐために
休憩時間に仕事の一環として電話当番に取り組んでもらい、
外出の機会を減らす。

作業が途切れてしまった時は、日報作りなどを依頼して手
が空かないようにする。

お店の方に事情を説明して、商品を外に持ち出す前に声を
かけてもらえるよう協力を依頼。

⇒ 環境を整備する

地域活動支援センターでの取り組み

特定非営利活動法人NPOいずみ 飛行船
支援員 林由佳 ・ 荒川陽子

地域活動支援センター 飛行船の概要

- ・地域活動支援センターⅡ型

- ・登録者は49名(男性30名 女性19名)

- ・統合失調症、発達障害、人格障害など様々な方が通所。

高次脳機能障害の方は2名在籍。

- ・毎日プログラムに沿って活動している。

- ・活動の目的と特色

- 1 同じ悩みを抱えた仲間と出会い、いろいろな活動を通してそれぞれの目標をもち、それに合わせた支援を行います。

- 2 奉仕活動を通して、地域の方々と関わりながら、社会生活になじむ機会をもち、地域の社会資源との連携を密にし、自己の生活圏をひろげられるよう支援します。

プログラム

		月	火	水	木	金
		28	29	30	1	2
午前	10:30 ~12:00				作業(牛乳ボックス)	面談・相談日
午後	13:30 ~15:00				マンスリーホビーデー (DVD鑑賞)	フリータイム
		5	6	7	8	9
午前	10:30 ~12:00	面談・相談日	フリータイム (けやきの会)	ビーズ	鴨川一泊旅行	
午後	13:30 ~15:00	飛行船ミーティング	職員会議 <small>※活動時間は15:00までです</small>	巡回健康相談		
		12	13	14	15	16
午前	10:30 ~12:00	体育の日	面談・相談日	フリータイム	作業(牛乳ボックス)	料理教室
午後	13:30 ~15:00		PC教室(PM)	レザークラフト	10月のお誕生日会 (栗どら焼き)	面談・相談日
		19	20	21	22	23
午前	10:30 ~12:00	合同ミーティング	フリータイム	ビーズ	作業(牛乳ボックス)	フリータイム
午後	13:30 ~15:00	クラブ活動	PC教室(PM)	面談・相談日	飛行船スポーツ (風船バレー)	散歩(スキップ【喫茶】)
		26	27	28	29	30
午前	10:30 ~12:00	マナー講座	面談・相談日	フリータイム	作業(牛乳ボックス)	ヘルシー料理教室
午後	13:30 ~15:00	みんなでスタディ (鉄道についてPart2)	フリータイム	レザークラフト	スポーツ(体育館)	面談・相談日

事例

Aさんの紹介

Aさん 70代 男性

[障害名]高次脳機能障害

[手帳]精神障害者保健福祉手帳 2級

[家族構成]妻、息子(同居)

[経緯]発病以前は長年自動車会社に勤務。趣味の社交ダンスや国内外への旅行、ドライブなどを楽しんでいた。50代後半に右内頸動脈瘤のクリッピング手術後、脳動脈領域の脳梗塞併発。記銘力低下、左半側無視、失見当識、病識低下有り。症状は徐々に軽快し、退院となったが、注意力低下、記銘力低下、左半側空間無視を遺した。リハビリのため保健センターのリハビリ教室に半年間通う。

平成13年、当時小規模作業所であった当事業所を利用開始。

利用開始時の様子

- ・左半側無視、注意力低下のため、外出は慣れた場所に限られる。
通院や遠方への外出は見守りが必要。
- ・記銘力低下のため、新規の場所では道に迷ってしまう。
- ・日常生活動作は自立しているが、自発性低下が見受けられ、活動には促しが必要な場面が多い。
- ・週に1・2回ほどの通所で、リハビリを兼ねて袋作業を行う。
- ・煙草を隠れて吸い、注意される。
- ・日記を欠かさず書いており、それを保健センターの担当職員に見せることを楽しみにしていた。

取り組み・挑戦したこと

- ・就職活動

就労支援センターやシルバー人材センターを利用し、就職活動を行う。

- ・就労

シルバー人材センターからの紹介により、4つの職を経験する。また現在も就労している。

- ・軽作業 主に袋作業

- ・リハビリの一環としての他利用者とのコミュニケーション

小規模作業所から地域活動支援センターに変わり、他利用者とのコミュニケーションをとる機会が増えた。

現在の様子

- ・週3～4日、1日2時間 駐輪場の管理業務を行う。仕事が早朝のため、飛行船を仕事後の休憩の場として利用している。家庭や職場にないリラックスできる場所となっている。
- ・細かい作業を行うプログラムは苦手とするが、多くのプログラムや行事には参加。
- ・仕事後來所し、休息をとっている時間も多いが、職員からの声掛けにより行動する。
- ・遠出する際は妻や息子と一緒に出掛ける。
- ・同じ話を繰り返すことが多いが、周りの人もAさんを受け入れ、見守っている。
- ・週に2日社交ダンス教室に通い、趣味を楽しんでいる。
- ・毎週土曜日には病院のリハビリに通う。

地域活動支援センターを利用することのメリット

- ・リラックスして仕事の疲れをとることができる。
- ・話し相手が多く、同じことを何度言っても許される場。
- ・ご家族が自由な時間をもてることで本人との関係を良好に保てる。
- ・ご家族が相談をすることができる。(ご家族の負担を減らすことができる)
- ・豊富な知識や経験を話すことによって、自信をつけることができる。

本人の要望

- ・現在続けている仕事と健康を維持する。
- ・可能ならばもう少し長い時間働きたい。
- ・仕事を続けるために生活のリズムを整える。
- ・他の利用者らとコミュニケーションをとることでリハビリの一環とする。
- ・年齢的にいつまで現在の仕事の契約を更新できるかわからないため、今後の生活のことも考えて、近場で長時間働ける場所があれば働きたい。